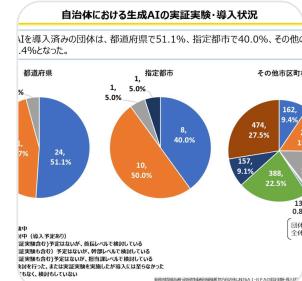




# 他自治体の生成AI導入・活用事例レポート

## 1. 概要

図: 自治体における生成AI導入状況 (2023年末時点) – 都道府県の51.1%、政令指定都市の40.0%が生成AIを導入済みである一方、その他の市区町村では9.4%に留まっており、自治体規模による導入格差が見られる first-contact.jp。2022年末のChatGPT登場以降、行政分野にも生成AI活用の機運が高まり、**職員数減少や住民サービス向上の課題に対処するDX手段**として注目されている first-contact.jp



first-contact.jp。自治体業務は企画書・議事録作成や資料要約などテキスト作業が多く、これらにAIを活用すれば**業務効率化・負担軽減**につながると期待される first-contact.jp first-contact.jp。実際、国内各地で**文書作成支援、問い合わせ対応自動化、議事録要約、政策立案支援、観光案内**など様々な分野で生成AIの実証・導入事例が現れており、**職員の作業時間削減やサービス品質向上**といった成果が報告されている。もっとも、一方で**情報漏えいや誤情報生成などのリスク**も指摘されており first-contact.jp、国や自治体はガイドライン策定やセキュリティ対策を進めつつ、安全・効果的な活用に取り組んでいる

first-contact.jp first-contact.jp。以下では、2023年以降における国内自治体の代表的な生成AI活用事例を紹介し、それらを比較分析したうえで、今後の展望と提言を述べる。

## 2. 事例一覧

### 自治体名: 横須賀市 (神奈川県)

- 背景・目的:** 全国の自治体に先駆けて2023年4月にChatGPTを全庁導入。少子高齢化に伴う職員数減少や業務量増加への対策として、**業務効率化と行政サービス向上**を図ることが目的 first-contact.jp。
- 活用分野:** 職員の**文書作成** (公文書・メール文案)、**議事録の要約**、**情報リサーチ**、**アイデア創出**など、庁内の幅広いテキスト業務で活用 first-contact.jp。
- 具体的な事例:** 全職員 (約3,800人) が業務PCからChatGPTを利用可能な体制を整備し、4月20日から1か月の実証を経て本格運用開始 first-contact.jp。職員向けにプロンプト (入力指示) の工夫を競う**コンテスト**や研修も実施し、現場での創意工夫を促進 first-contact.jp。アンケート結果では**職員の約半数が実際にChatGPTを活用したことがわかつている** first-contact.jp。

- **成果・効果:** 利用職員の8割以上が「業務効率が上がった」と回答し、庁内のDX推進や職員のデジタルリテラシー向上にも波及効果が生まれた [first-contact.jp](#)。文書作成時間の短縮により他業務に充てる時間が増えるなど職員負担軽減が実現。市民にも概ね好意的に受け止められ、横須賀市は自ら「生成AI開国之地」として先行事例の知見共有に積極的な姿勢を示している [first-contact.jp](#)。
- **課題・リスク:** 誤情報の生成（いわゆる「幻影（hallucination）」）や機密情報漏えいのリスクへの対処が課題。横須賀市でも他自治体同様、職員に対し「機密情報や個人情報は入力しない」「AI回答の鵜呑み禁止（必ず事実確認する）」といったルール徹底で対応 [tsukuba-city.note.jp](#) [first-contact.jp](#)。情報セキュリティ研修や利用ガイドライン整備など、安全な運用体制の構築に努めた。
- **今後の展望:** 引き続き職員のAI利活用スキル向上を図りながら、生成AI活用範囲の拡大を検討。他自治体や民間とも知見を共有し、行政への生成AI活用モデルを全国へ波及させる考え [first-contact.jp](#)。市民向けサービスへの応用（チャットボット等）も視野に、先進自治体として取り組みを発展させていく。

## 自治体名: おいらせ町（青森県）

- **背景・目的:** 人口約2万の町で行政DX推進と職員の働き方改革を目的に、2024年度に生成AIを導入。限られた人員で住民サービスを維持・向上するため、長時間労働是正や業務効率化につながるAI活用を模索 [first-contact.jp](#)。
- **活用分野:** 行政文書の作成支援（広報文・答弁案・企画書など）、政策立案のアイデア出し、職員からの問い合わせ対応など。庁内の様々な部署で利用できるプロンプトテンプレートが用意されており、広報・企画・総務など横断的に活用可能 [first-contact.jp](#)。
- **具体的事例:** 株式会社Exa Enterprise AIの提供する自治体向けChatGPTサービス「exaBase 生成AI for 自治体」を導入 [first-contact.jp](#)。自治体専用ネットワークLGWAN上で動作し、職員アカウントを無制限発行できるため全職員が利用可能。月額課金制で同時接続数に応じた料金体系を採用し、庁内全体で円滑に使える環境を構築した [first-contact.jp](#)。
- **成果・効果:** 高セキュリティなAI活用基盤が整備されたことで、職員は機密性の高い業務以外あらゆる場面でAIを安心して使えるようになった。広報原稿の効率作成や政策アイデア出しの時間短縮など効果が現れており、職員の長時間残業是正や発想支援につながっていると期待される。町全体でDX推進への意識が高まり、業務改善の好事例となっている。
- **課題・リスク:** 小規模自治体ゆえ専門人材や予算の制約がある中で、外部サービスを活用する選択をした。クラウドサービス利用に伴う情報漏洩リスクへの懸念に対しては、当該サービスがユーザーデータを学習に使用しない設計やNGワード設定、国内LLM限定利用などの対策を講じており、安全面の配慮がなされている [first-contact.jp](#)。今後は職員が十分に使いこなせるよう研修を充実させ、利用ルール遵守を徹底することが課題。

- ・ **今後の展望:** 導入した統合AIサービスを基盤に、**庁内全部署で生成AIを本格活用**していく計画。広報文作成や議会答弁案作成など既存テンプレートの効果検証を進め、業務フローに組み込むことで更なる効率化を図る。得られた知見は町内に留めず共有・発信し、近隣自治体への展開や国のDX支援策へのフィードバックも視野に入れている。

## 自治体名: つくば市 (茨城県)

- ・ **背景・目的:** 市長自ら2022年頃からChatGPTを試用し可能性を感じ、**行政への積極導入**を検討 [tsukuba-city.note.jp](#) 。2023年3月に市長・副市長や筑波大学教授らを含む「生成AI検討グループ」を発足させ、**政策立案力の強化や業務効率化**を目的に庁内での生成AI活用を推進 [tsukuba-city.note.jp](#) 。
- ・ **活用分野:** **庁内チャットボットによる職員支援**（文章要約、挨拶文・メール文下書き、自動検索応答等）、**市議会議事録や市民意見の分析**による政策立案支援、広報業務や問合せ対応など。行政内部の知識共有と、市民の声の可視化の両面でAIを活用 [first-contact.jp](#) 。
- ・ **具体的的事例:** 2023年4月、庁内業務チャット（LoGoチャット）上でGPT-3.5をAPI連携した**AIチャットボット「けんじくん」**を独自開発し、試験運用開始からわずか2週間で全職員（2,150人）へ利用を拡大 [tsukuba-city.note.jp](#) [tsukuba-city.note.jp](#) 。けんじくんは文章要約や文案作成など職員の様々な依頼に応答し、ログは全保存され機密情報は学習されない設定で安全に運用 [tsukuba-city.note.jp](#) [tsukuba-city.note.jp](#) 。さらに2024年に向け、PwCコンサル等と連携し議事録・市民コメント分析システムを開発。AIが膨大なテキストから重要キーワードを抽出しダッシュボードで可視化する仕組みで、政策立案への活用を目指している [first-contact.jp](#) 。
- ・ **成果・効果:** **庁内チャットボットの導入**により日常業務の効率が向上し、例えば長文資料の要約作業が短時間で可能になるなど職員の生産性が上がっている。2023年5月に導入を公表すると新聞各紙で大きく報道され、市内外から注目を集めた。また、市議会議事録や市民の声をAIで分析する試みは**市民ニーズを政策に反映するスピードと精度の向上**につながっており、職員の働き方改革と住民サービス高度化を両立する成果が期待されている [first-contact.jp](#) 。
- ・ **課題・リスク:** **人為による確認作業の重要性**が課題となる。生成AIは誤った回答をもっともらしく出力する可能性があるため、市は「内容の正確性確認」「機密情報を入力しない」等のルールを明示し、職員に徹底させた [tsukuba-city.note.jp](#) 。また、庁内システムと外部AIの連携によるセキュリティ確保や、分析システム導入における技術面のハードルもあったが、筑波大学や民間企業と連携することで補完している。AI活用が急速に進む中、**職員のリテラシー向上と組織的な支援**によって安全かつ効果的な運用を持続することが課題である。

- ・ **今後の展望:** 現在進行中の政策立案支援AIシステムを完成・展開し、市民の意見をリアルタイムに分析して市政に反映することを目指す。また、生成AIに関する他自治体との情報交換や共同研究を進め、自治体間連携によるAI活用モデル構築を視野に入れる  
tsukuba-city.note.jp。さらに、市民向けサービスにもAIを応用し、住民が利便性を実感できる取り組み（チャットボットの外部公開等）を検討。先駆的自治体として実績を積み重ね、地域発のイノベーション創出につなげる計画である。

## 自治体名: 美祢市（山口県）

- ・ **背景・目的:** 人口2万弱の地方都市で、IT活用による地域活性化に注力。観光資源豊富な美祢市ではデジタル技術で観光PRを強化する方針があり、**観光客への情報提供サービス向上**を目的に生成AI導入を決定 first-contact.jp。過去にデジタル住民票NFTを完売するなど先進的取り組みを行っており、その延長で観光分野へのAI活用に踏み切った  
first-contact.jp。
- ・ **活用分野:** 観光案内チャットボットによる旅行者向けサービス。市の公式キャラクターが対話しながら観光地情報やグルメ・宿泊情報を提供する取り組みで、テキストだけでなく音声での案内にも対応する点が特徴 karusuto.com。
- ・ **具体的事例:** 2023年9月、市公式キャラクター「ミネドン」を案内役とした観光向けChatGPTサービスをリリース karusuto.com。市観光協会Webサイト「カルストドットコム」に掲載された観光地・特産品・宿泊先などの情報を機械学習（エンベディング）させた独自AIで、利用者はスマホ上でミネドンとのテキストまたは音声対話を通じて知りたい情報を気軽に入手できる karusuto.com。LINE公式アカウントからもアクセス可能な仕組みで提供。
- ・ **成果・効果:** 自治体キャラクターによる音声観光ガイドは国内初の事例であり、観光客から話題を集めた first-contact.jp。従来はパンフレットやWeb検索に頼っていた観光情報収集が対話形式で行えるようになり、旅行者の体験価値向上に寄与。市公式データベースをもとに回答するため情報の正確性・網羅性が高く、利用者から有用との声が聞かれる。ITを活用した観光案内の**先進モデルケース**として注目され、他地域からの視察や問い合わせも増えている。
- ・ **課題・リスク:** 音声対話システムの実装にあたり、**大量の観光情報データ整備**やモデル訓練に時間とコストを要した。またAIが最新情報に対応できるよう、データ更新やメンテナンスを継続する体制が課題。回答精度については公式情報ベースであるため誤りは少ないが、想定外の質問への応答ロジック改善や、多言語展開への対応など技術的課題も残る。利用促進の面では、観光客への周知や高齢者でも使いやすいUIの検討も必要である。
- ・ **今後の展望:** 観光AIチャットボットの継続改善・高度化を図り、提供情報の拡充や多言語対応検討により更なる利便性向上を目指す。また、このノウハウを市内他分野（例：防災情報案内や移住相談など）にも応用し、デジタル技術で地域住民・訪問者双方の利便性を高める方針。美祢市は引き続きIT活用による地方創生に取り組み、成功事例を発信することで全国的なスマート自治体化の流れに貢献したいとしている。

## 自治体名: 神戸市 (兵庫県)

- **背景・目的:** 政令指定都市の中でもDXに積極的な神戸市は、2023年度より生成AIの試行導入を開始。行政事務の生産性向上と市民サービス創出を両立すべく、**全庁規模でのAI活用**を戦略的に推進した。特に市職員数削減が見込まれる中で業務品質維持を図る「スマート自治体」施策の一環として、生成AIを中核技術に据えている [first-contact.jp](#)。
- **活用分野:** 職員向け**Microsoft 365 Copilot**（生成AI搭載ツール）による**業務改善全般**。具体的には**広報紙作成の支援**（ペルソナ分析・読者ターゲット設定など）、**市民アンケート設問の自動生成**、**職員の人事考課調書作成補助**、企画書ドラフト作成など多岐にわたる [first-contact.jp](#)。あわせて、AIを用いたサービスデザインの研究も進め、行政サービス設計プロセスへのAI活用を模索している [first-contact.jp](#)。
- **具体的事例:** 2024年2月、全職員約1.2万人を対象にMicrosoft社のCopilotを本格導入 [first-contact.jp](#)（同製品を全職員に展開した自治体は国内初規模）。デジタル戦略部門を中心に活用トレーニングを実施し、職員が日常業務でCopilotを使える環境を整備。Copilotにより、例えば広報紙の企画段階で**読者モデル設定や記事アイデア出し**をAIが補助し、より市民ニーズに即した内容を短時間で作成できるようになった。また2024年3月には全国初の包括的な**AI利用に関する条例**を制定し [first-contact.jp](#)、生成AI等を業務で活用する際の責務やガイドラインを明文化している。
- **成果・効果:** **生成AI活用後は施策立案や住民サービス提案のスピード・精度が向上し**、意思決定までの時間短縮が見られた [first-contact.jp](#)。AIによる文章提案で職員の手戻り作業が減り、特に企画書や調書の作成負担が軽減されたとの報告がある。AI活用を通じてデータに基づく施策検討が進み、属人的だった業務も標準化・効率化が図られた。条例制定により**倫理・セキュリティ面のリスク対策**も強化され、職員も安心してAIを使える環境となっている。神戸市の取り組みは「行政におけるAIガバナンス」の先行事例として注目され、他自治体からの問い合わせも増えている。
- **課題・リスク:** 大規模組織への一斉導入のため、**職員間の習熟度差**や利用ルール周知が課題となった。Copilot活用には職員のITスキルも要求されるため、研修機会を設けて対応。また、生成AI活用による**誤情報混入のリスク**に備え、条例や内部ガイドラインで「AI生成文書は必ず人がチェックすること」「安全性が確認されたツールのみ利用すること」などを規定 [first-contact.jp](#)。ライセンス費用負担も大きいため、利用頻度や効果をモニタリングしながら費用対効果の検証を行っている。
- **今後の展望:** 条例に基づく継続的なルール整備と運用改善を行いながら、全庁的にAI活用を深化させる方針。具体的には、AIによるデータ分析やシミュレーションを政策立案に取り入れ、市民参加型の対話AIなど新サービス開発も検討する。また、国にも働きかけて自治体向けAI活用の制度設計や予算措置に関与し、全国的な行政DXの牽引役となることを目指す。

## 自治体名: さいたま市 (埼玉県)

- **背景・目的:** 政令市であるさいたま市では、毎年約8,000人分にも及ぶ保育所入所選考業務に膨大な時間と人手を割いていた [fujitsu.com](#)。待機児童問題への対応や選考の公平性確保も課題となる中、**AI技術で最適なマッチングを自動化し業務負担軽減と保護者支援につなげること**を目的に導入を決定。2017年から産学共同で実証を進め、2023年までに実用化した。
- **活用分野: 保育所入所選考の自動化**（マッチング最適化AIシステム）。保護者から提出される希望園や兄弟同時入所など複雑な条件を考慮し、ゲーム理論に基づき子どもと保育所の最適な組み合わせをAIが瞬時に算出する。行政手続きの中でも特に組合せ最適化問題にAIを活用した先進事例。
- **具体的的事例:** 富士通・九州大学の研究チームと連携して**AIマッチングシステム**を開発し、2023年度の選考から本格運用 [first-contact.jp](#)。まず実績データでAIの精度検証を行い、人手による選考結果と突合しつつ制約条件を調整。AIには富士通の「Human Centric AI Zinrai」技術を活用し、兄弟優先などローカルルールも組み込んだ。システムは最も多い時期で**児童約8千人分の割当てを数秒で完了させ** [fujitsu.com](#)、結果を職員が確認後そのまま保護者へ通知する形となっている。
- **成果・効果:** AI処理結果は人手による結果とほぼ100%一致し、従来数週間かかっていた作業がわずか数秒で完了するレベルに達した [fujitsu.com](#)。これにより20~30名の職員による長期間の手作業が不要となり、**職員の業務負担と心理的ストレスを大幅に軽減** [first-contact.jp](#)。選考結果が例年より早期に確定することで、保護者の復職計画や生活設計にも余裕が生まれるなど波及効果も確認されている [first-contact.jp](#)。また、選考過程の透明性・公平性も担保され、住民からの信頼向上につながった。
- **課題・リスク:** AIに決定を委ねることへの**不安や抵抗感**が当初想定されたため、職員がAI結果を検証し問題ないことを重ねて確認するプロセスを導入。また、アルゴリズムがブラックボックスにならないよう、結果の理由を説明可能なよう工夫された。システム開発には数年を要し、**専門知識を持つ研究機関との連携**が不可欠であった。費用面でも高度なAI導入のコスト負担が課題だが、効果が明確なため理解が得られやすかった。今後はデータ更新や制度変更時のメンテナンス体制を確立し、常に最新・最適な割当てができるようにする必要がある。
- **今後の展望:** 本システムの運用を安定させつつ、**他自治体への展開**や他の分野への応用も視野に入れる。例えば幼稚園や小中学校の学区割当、公共施設利用予約の最適化など、応用可能なマッチング領域は多い。さいたま市は得られた知見を自治体間で共有し、AI活用による業務改革モデルケースとして発信を続ける計画である。また、本事例を踏まえ、国にも制度面での支援拡充を提言していく。

## 自治体名: 戸田市 (埼玉県)

- **背景・目的:** 人工湖西と並びDXに積極的な戸田市では、生成AIなど最新技術の調査研究を2023年春から開始 [city.toda.saitama.jp](#)。**職員の業務効率化と市民サービス向上**の両立を目指に、府内実証や総務省事業への応募など積極的に取り組んだ。河野デジタル大臣が研究会を視察するなど国からも注目され、地方自治体の生成AI活用モデル構築を目指している [city.toda.saitama.jp](#)。

- **活用分野: 庁内業務全般の効率化**（文書作成支援、データ整理、資料要約など）、**市民向けチャットボット**による24時間問い合わせ対応、**スマート窓口システム開発**（申請書作成支援・審査の自動化）など [first-contact.jp](#) [city.toda.saitama.jp](#)。さらに税務分野では**固定資産税業務への画像AI解析**も導入済み [city.toda.saitama.jp](#)。行政内部と外部サービスの双方でAI活用を進めている。
- **具体的な事例:** 2023年5月に庁内「ChatGPT調査研究チーム」を設置し、7月には職員・市民合同のハッカソンを開催するなど裾野を広げた [city.toda.saitama.jp](#) [city.toda.saitama.jp](#)。技術面では、**行政ネットワーク内で職員全員にChatGPTアカウントを配布し試行** [first-contact.jp](#)。2023年11月にはAIで約3,000,000文字を生成し**約500時間分の労働時間を削減**（換算約225万円の効率化）という成果を上げ、月額利用料11万円に対し高い費用対効果を実証した [first-contact.jp](#)。また、市民向けにはデジタル職員「さくうさ」による**AI総合案内サービス**を提供開始 [city.toda.saitama.jp](#)。子育て、引越し、ごみ出し、証明書請求など様々な問い合わせに対し、対話形式で回答し市公式サイト該当ページへ誘導するもので、**市民は24時間気軽に必要情報を得られるようになった** [city.toda.saitama.jp](#) [city.toda.saitama.jp](#)。さらに2023年12月からはチャットボットに音声対話機能を追加し実証中で、AI回答内容は必ず職員がチェックする運用で安全性にも配慮している [first-contact.jp](#)。他方、川口市と共同で総務省の「自治体AI共同開発推進事業」に採択され、**AIによる申請書作成支援・審査システム**の開発にも着手 [city.toda.saitama.jp](#)。行政手続きをスマホ等から簡便に行え、AIが内容審査まで代行するクラウド型窓口を目指す先進的プロジェクトである。
- **成果・効果: 庁内業務の効率化**では短期間で顕著な成果を達成。チャットGPT活用により1か月あたり数百時間規模の作業削減を実現し [first-contact.jp](#)、職員からは「書類作成が格段に楽になった」など好評を得た。市民向けAI案内では、電話や窓口に比べ気軽に質問できる利点から利用者の自己解決を促進し、特に夜間の問い合わせ対応が円滑化。  
[city.toda.saitama.jp](#) 市民からは「24時間サービスは便利」との声が聞かれ、**市民満足度向上**につながっている。国の共同開発事業への参画は、市としてAI利活用を牽引するポジションを確立する効果もあり、得られた成果は総務省を通じ全国展開が期待される。
- **課題・リスク: 職員のスキル差や抵抗感への対応**が課題。ITリテラシーが十分でない部署もあるため、研修やハンズオン支援で底上げを図っている [first-contact.jp](#)。また、AI回答の誤りや不適切表現に備え、人が検証するプロセスを欠かさず実施中。市民向けAIには誤解を与えないよう**最終的に公式サイトで確認する動線**を組み込む等の工夫 [city.toda.saitama.jp](#) も行った。セキュリティ面では、庁内ネットワーク上の利用や利用ログ管理により情報漏洩リスクを低減。今後は、利用が進んでいない部署への働きかけや、市民への周知不足の解消が課題となる。

- ・ **今後の展望:** 庁内ガイドラインの策定・運用を進め、生成AIを安全に活用できるルールを確立（調査研究チームで既に案を作成 [city.toda.saitama.jp](http://city.toda.saitama.jp)）。全職員への浸透を図り、さらなる業務改革を推進する。また、川口市との共同開発結果を踏まえ、スマート窓口サービスを実装し市民手続のDXを実現したいと考え。将来的には、蓄積したノウハウを近隣自治体へ展開支援し、埼玉県内全体の行政DX底上げにも貢献するビジョンを描いている。戸田市は引き続きチャレンジングな実証を重ね、行政における生成AI活用モデルをアップデートしていく予定である。

## 自治体名: 湖西市（静岡県）

- ・ **背景・目的:** 人口4万強の湖西市では、2023年に現場職員から「AIで業務効率化できないか」との提案があり、それを契機に生成AI導入が検討された [first-contact.jp](http://first-contact.jp)。限られた職員数で多様な業務をこなす必要がある中、職員発のボトムアップ型DXとして経営層もこれを後押しし、業務改善・時間短縮を目的に導入を決定。月額予算も抑えつつ効果を試すスマートスタートの方針を採った。
- ・ **活用分野: 広報・情報発信業務**（SNS投稿文やイベント案内文の自動生成）、**文書作成業務**（行政手続きの仕様書草案、会議録作成補助など）、**画像作成**（広報用画像の生成）、**簡易なプログラミング補助**（マクロ・VBAコード生成）など多岐 [saishinit.com](http://saishinit.com)。職員それぞれが業務上のニーズに応じ、複数の生成AIツールを使い分けている [first-contact.jp](http://first-contact.jp)。
- ・ **具体的事例:** 2023年7月より試行導入を開始。当初はChatGPT等を用いて**公式SNS投稿文の作成**から活用し始め、その後業務範囲を広げて**システム調達仕様書作成**や**コード生成**などにもAIを適用 [saishinit.com](http://saishinit.com)。わずか半年余りで全庁的に様々な生成AIサービス（文章生成、画像生成など）を導入し、用途ごとに最適なツールを選択する運用を確立した [first-contact.jp](http://first-contact.jp)。導入費用は**月額約7万円**と低コストで、DX推進アドバイザーの助言も得ながら現場主導で運用。
- ・ **成果・効果:** 2023年7月から2024年2月までの試算で、**約800時間分の業務時間削減効果**が確認された [saishinit.com](http://saishinit.com)。特にSNS記事の作成や資料のひな形作成といった反復業務で大幅な時間短縮が実現している。また、AIで下書きを作成することで**内容の正確性が向上**し（データや記載漏れの減少）チェック修正の負担も減ったとの声が職員から上がっている。導入プロセスが職員提案発であったことから庁内の意識変革にもつながり、他の業務についても「AIで効率化できないか」と考える風土が醸成された。総じて**職員負担軽減と発信力強化**に寄与する成果が出ている [first-contact.jp](http://first-contact.jp)。
- ・ **課題・リスク:** 当初は一部のITに明るい職員による限定的活用だったため、**部署間で活用度に差**があることが課題に挙がった。今後、利用が進んでいない部署への働きかけやプロンプト共有による支援などで全庁展開を図る予定 [first-contact.jp](http://first-contact.jp)。また無料・商用の外部AIサービスを利用する関係上、**機密情報の取扱いや利用規約遵守**に注意が必要であり、庁内でガイドラインを策定し情報漏洩リスクに備えている。人的なチェックを怠らず、あくまで補助ツールとしてAIを位置付ける運用を維持することも課題である。

- ・ **今後の展望: 全職員への生成AI活用トレーニング**を実施し、ITリテラシー底上げと定着を図る [first-contact.jp](#)。併せて、各部署からさらなる活用アイデアを募り、新たな業務へのAI適用を拡大していく計画。現在効果が大きい広報分野以外にも、例えば議会資料の要点要約や住民アンケート結果分析などへの展開も視野に入れる。湖西市は自らの成功体験を踏まえ、「小規模自治体でも低コストでDXを進められる」モデルケースとして情報発信し、他の市町村の参考になる知見を提供していきたいと考えである。

## 自治体名: 別府市（大分県）

- ・ **背景・目的:** 観光都市・別府市は行政DXの一環としてRPA（業務自動化）を先行導入しており、2023年からは**生成AIとの組み合わせで業務効率化を加速させた**。職員の定型業務を極力自動化し、人手を要する対応はAIに下支えさせることで、**限られた人員で行政サービスを充実させる**狙いがある。特に子育て支援や市民の声対応といった分野で新たなソリューション創出を目指した。
- ・ **活用分野:** チャットボットによる市民問い合わせ対応（子育て分野から開始）、**市民意見メールの分類・要約、アンケート自由記述回答の分析**など。RPAで収集したデータを生成AIが処理するワークフローを構築し、職員の手作業を代替・補助している [first-contact.jp](#)。他に観光分野でもチャットボット活用を検討中。
- ・ **具体的事例:** 2023年、地元の大分大学医学部およびIT企業と**産学官連携協定**を締結し、生成AI技術活用によるDX推進で協力 [city.beppu.oita.jp](#)。まず\*\*「子育てチャットボット」を試験開発し、別府市の子育て支援サービスに関する独自データベースをAIに学習させた回答システムを実証運用（第1弾：2023年夏）[city.beppu.oita.jp](#)。得られたフィードバックを踏まえモデルやUIを改良して第2弾実証を実施 [city.beppu.oita.jp](#) し、回答精度向上や利用促進策（市公式HPトップにチャット窓口を設置等）を講じた [city.beppu.oita.jp](#)。その結果を受け、2025年7月7日より子育て分野チャットボットの本格運用を開始\*\* [city.beppu.oita.jp](#)。一方、**市民からの意見メール**については、RPAで日々集約したメール内容を生成AIが要約・分類する仕組みを構築 [first-contact.jp](#)。これにより担当職員が対応すべき優先度や所属部署を即座に振り分け可能となった。また、市が実施した自由記述式アンケート約2,600件分の回答分析に生成AIを適用したところ、**従来2週間かかっていた集計が2日間で完了する**など劇的な効率化を実証した [first-contact.jp](#)。
- ・ **成果・効果:** 子育てチャットボットでは保護者からの問い合わせに24時間対応可能となり、特に夜間・休日の相談ハードルを下げる効果が期待されている。実証段階から利用者アンケートでも概ね好評で、本運用開始に至った。[city.beppu.oita.jp](#) また、**意見メール処理**では職員の「読む・分類する」負担が激減し、メール内容把握に要していた時間が大幅短縮された。AIは表現揺れのある市民意見も的確に要約・分類するため、**対応漏れの防止や意思決定の迅速化**につながっている。先述のアンケート分析では約90%の時間削減を達成し、「**大幅な時間短縮で助かった**」と職員から評価された [first-contact.jp](#)。総じて、**RPA×生成AIの組み合わせが業務効率と精度を飛躍的に高めること**を証明する成果となり、現場職員のAI活用に対する信頼感も増している。

- **課題・リスク:** 専門データの整備とAIモデルのチューニングに関する課題があった。子育てチャットボットでは市独自の制度や用語に対応する必要があり、AIに学習させる知識ベースの構築に時間を要した。また初期モデルでは誤答も見られたため、**より高精度な生成AIモデルに変更**し回答の正確性を高める改善を行った [city.beppu.oita.jp](http://city.beppu.oita.jp) 。他方、市民からの自由回答をAIが扱う際、**不適切表現の検知やプライバシーへの配慮**も必要で、フィルタリングや匿名化処理を組み合わせて運用している。導入コスト面では、大学や企業との連携により負担を分散したが、引き続き持続可能な費用対効果の検証が必要。今後、他分野への展開に際してはデータ準備や人材育成の面でさらなる投資も見込まれ、その計画策定が課題となる。
- **今後の展望:** 生成AI活用チャットボットを子育て以外の行政サービスにも拡大し、例えば高齢者福祉や観光案内等での導入を検討している。現に観光分野ではAI案内サービスの可能性を研究中である。さらに、RPAとAIの連携による業務自動化シナリオを増やし、他部署の定型業務にも水平展開する方針。別府市は今回の成果を踏まえ、自治体DXにおける\*\*「AI+RPA」モデルの成功例\*\*として国内外に情報発信し、総務省や他自治体とも連携しながらデジタル行政の高度化に寄与していく考えである。

## 自治体名: 相模原市（神奈川県）

- **背景・目的:** 政令市・相模原市は市制70周年を迎えるにあたり、**DX施策の一環として生成AI導入**に踏み切った。特に市議会での質疑応答準備に職員の多大な労力が割かれている現状を改善し、**業務効率化と市民サービス向上**の両立を図ることが目的 [first-contact.jp](http://first-contact.jp) 。国産の生成AI技術に着目し、自治体の実務に適用する全国初の試みとして推進した。
- **活用分野: 議会答弁案の自動生成支援。** 過去の議会質問と答弁データを学習したAIが、新たな質問に対する回答案を提示する。行政文書の中でも高度な作文スキルを要する分野でAIを活用する取り組みであり、他の文書作成業務への波及も視野に入る。
- **具体的事例:** 2023年、NECと協定を締結し、同社の国産生成AIエンジン「cotomi」を活用したシステムを共同開発 [first-contact.jp](http://first-contact.jp) 。市内の過去数年分の議会質疑応答テキストをAIに学習させ、まずAIが答弁の**原案**を作成。そこに人間の言葉遣いや文体の修正フィードバックを反映させる**ファインチューニング**をNECと反復実施し、市の求める答弁スタイルを習得させた [first-contact.jp](http://first-contact.jp) 。2024年6月の市議会よりこのシステムを本格運用開始し、AIが生成した案を担当職員が確認・調整の上で実際の答弁に活用している [first-contact.jp](http://first-contact.jp) 。
- **成果・効果:** 全国初の自治体による国産生成AI活用事例として注目を集め、他自治体・国会でも話題となった [first-contact.jp](http://first-contact.jp) 。導入後は職員が答弁案のたたき台をAIから得られるため、**下準備にかかる時間が大幅短縮**された。特に類似質問への対応では過去の蓄積をAIが瞬時に検索・文章化するため、ベテラン職員でなくとも一定品質の案を作成できるようになり、**業務の属人化解消と標準化**にもつながっている。効果検証では労働時間の削減も確認され、削減分を他の市民サービス向上業務に充當できるようになったという。また、国産AI活用ゆえデータが市内に留まる安心感から、職員の心理的ハードルも低く運用できている。

- **課題・リスク:** 議会答弁という慎重さが求められる業務ゆえ、AIの回答品質と信頼性が最大の課題であった。ファインチューニングに十分な期間をかけ、専門部署や議会担当者の協力を得て精度向上を図ったものの、最終的なチェックと責任は人間が負う体制を維持している。また、現行システムは過去データに基づくため、前例のない質問や新規施策に関する答弁には別途人間の準備が必要となる。コスト面ではNECとの協働開発により初期費用を抑えられたが、長期運用に向けたライセンス料や追加チューニング費用の確保が課題。さらに、将来的に市民説明用など他用途に転用する際の汎用性も検討課題として残る。
- **今後の展望:** 議会業務以外への生成AI適用拡大を視野に入れる。例えば、行政から市民への通知文・案内文のドラフト作成や、職員からの庁内問い合わせ対応へのAI利用など、効果が見込まれる領域を模索する。また、今回の知見を活かし、他の自治体が国産AIを導入する際のモデルケースとしてノウハウ提供やシステム共有も検討する。国との連携も深め、自治体業務に適したAI開発やガイドライン作成に寄与していきたいとしている。相模原市は、DXを通じた\*\*「暮らしやすさ向上」\*\*の実現に向け、生成AIの安全・有効な活用を今後も追求していく [first-contact.jp](#)。

### 3. 比較分析

- **共通点:** 各自治体とも業務効率化や職員負担軽減を主要な導入目的に掲げており、人手不足への対応策・DX推進策として生成AIを活用している点が共通する [first-contact.jp](#)。特に**テキスト処理業務**（文書作成、要約、問い合わせ応答など）での活用が中心で [first-contact.jp](#)、庁内の膨大な文章仕事にAIを補助役としてあてるケースが多い。また、多くの自治体で**導入前に試行実験（PoC）を実施**しており、小規模に効果を確認しながら本格導入へ繋げている [saishinit.com](#)。さらに、**トップのリーダーシップや現場の提案力**が成功を後押ししている点も共通する。例として横須賀市・神戸市では首長や専管部門が旗振り役となり、湖西市・戸田市では現場発のアイデアを経営層が支援する形で実現している [first-contact.jp](#)。導入後の効果を見ると、**職員の意識改革やデジタルスキル向上**が付随して起きている点も共通して報告されている [first-contact.jp](#)。総じて、生成AI活用は業務効率だけでなく**組織文化の変化（デジタルマインド醸成）**にもつながっている。**リスク対策面では、どの自治体も機密情報の扱いに注意し人間による結果確認を徹底**しており [tsukuba-city.note.jp](#)、**ガイドライン整備や研修実施など運用ルールの確立**を図っている点も共通している [first-contact.jp](#)。

- **相違点:** 導入手法や活用領域には自治体ごとに相違が見られる。まず**技術アプローチ**では、市販の汎用サービスを活用するケース（例: 横須賀市・湖西市はChatGPTをそのまま利用）と、**LGWAN対応や国内開発モデルを採用する**ケース（例: おいらせ町はLGWAN型ChatGPT、相模原市はNECの国産AIを活用）に分かれる [first-contact.jp](#)。セキュリティや予算に応じて、クラウドサービスを直接使うか自治体専用環境を構築するかの違いがある。また**重点を置く分野**にも違いがある。内部の事務効率化に注力する自治体（例: 文書作成や議事録要約に特化した横須賀市・神戸市）もあれば、市民向けサービス向上を重視する自治体（例: チャットボットで24時間対応する戸田市、観光案内に活用した美祢市）のように方向性が異なる。さらに**規模や投資の差**も顕著で、大都市の神戸市は全職員に高額なCopilotを導入し条例まで制定したのに対し、財政規模の小さい湖西市は月7万円程度で既存AIツールを組み合わせ試行するなど、**各自治体の規模・リソースに応じた導入戦略**がとられている [first-contact.jp](#)。加えて、**外部連携の度合い**にも差がある。つくば市・別府市・相模原市のように大学や企業と協働開発する例がある一方、独自に工夫して庁内展開した例（横須賀市・湖西市など）もあり、それぞれの体制によるアプローチの違いが見られる。
- **成功要因:** 成功している事例にはいくつか共通した要因が認められる。まず、**スマートスタートで段階的に導入し効果を実証しながら拡大したこと** [saishinit.com](#)。湖西市のようにSNS投稿作成といった小さな業務からAI利用を始め、成果を数値で示して全庁展開につなげる手法は有効だった。次に、**人間との協働を前提にした運用である** [saishinit.com](#)。どの自治体もAIの出力をそのまま使わず必ず職員がレビューし、文脈に合わない部分を補正したり誤りを除去したりしている。AIをあくまで補助工具と位置付け、人の専門知や最終判断を組み合わせたことで質を担保しながら効率化できている。また、**教育とガバナンスの徹底**も成功を支える [first-contact.jp](#) [saishinit.com](#)。横須賀市や戸田市のように職員研修・ハッカソンでリテラシー向上を図ったり、神戸市のように条例でルール明確化したりと、組織として安心して使える環境を整えたことが現場の活用促進につながった。さらに、**トップの強い推進意志と現場の主体性の両立**も重要だった。トップダウンだけではなく、湖西市のようなボトムアップ提案も取り入れることで職員の納得感と創意工夫を引き出せた点が大きい。最後に、**外部リソース活用**も成功を後押し。産学官連携やベンダー支援、総務省の補助事業活用などに積極的で、ノウハウ不足や技術課題を上手く補完していた [city.toda.saitama.jp](#)。これらの要因が組み合わざり、各自治体で効果的な生成AI活用が実現している。

- **失敗/課題要因:** 一方、導入に苦戦したり消極姿勢の自治体も少なくない。その要因としてまず\*\*「使い道が分からない」という認知不足が挙げられる。実際、日本国内では生成AIの認知度こそ8割を超えるものの、実際に業務利用している人はごく一部という調査もあり、効果が不明確なままでは導入が進まない傾向がある [saishinit.com](#)。自治体でも自ら業務を棚卸ししAI適用箇所を見出す作業が不足している場合、着手できないままになってしまう。また、人材・ノウハウ不足も壁となる。ICT人材が限られる自治体では適切な助言者不在でリスク評価ができず、結果として静観するケースもある。さらにリスクへの過度な懸念\*\*も一因だ。例えば情報漏洩や誤情報提供への恐れから踏み出せない場合があるが、セキュリティ対策やログ監視を怠らなければリスクは管理できることを先行事例は示している [first-contact.jp](#)。費用面でも、**コストと効果の見極め**が難しいと感じる自治体は投資に踏み切れない。特に小規模自治体ではわずかな予算でも慎重になりがちで、その結果導入率の低迷（前述のように市区町村の導入率9.4%）につながっている [first-contact.jp](#)。総じて、**明確なビジョンと計画の欠如、リスクと効果のバランス判断の難しさ**が失敗・停滞の要因といえる [first-contact.jp](#)。成功例からは、専門家の知見を借りつつ計画的にリスク管理し導入を進めることの重要性が示唆される。

## 4. 提言

上述の事例と分析から、自治体における生成AI活用を推進するにあたって以下の示唆が得られる。

①**目的に応じたスマールスタート:** いきなり大規模・高コストな導入を行うのではなく、自団体の課題を見極めて**効果の出やすい業務から小さく始める**べきである。例えば文書のひな形作成や問い合わせ対応など、比較的リスクの低い領域で試行し、時短効果など**定量的成果を測定**することで職員や首長部局の理解を得やすくする [saishinit.com](#)。成果が確認できれば徐々に対象業務を広げる段階的導入が望ましい。

②**人間との協働とチェック体制の堅持:** 生成AIはあくまで補助ツールであり、**最終的な判断や責任は人間が負う**との原則を貫くべきである [saishinit.com](#)。具体的には、AIが生成した文章や回答は必ず職員がレビューし、事実誤認や不適切な表現がないかチェックするフローを組み込むことが重要だ [first-contact.jp](#)。人間の専門知や経験との**相互補完関係**を保つことで、誤情報拡散のリスクを低減しつつ信頼性の高いサービス提供が可能となる。

③**ルール整備とセキュリティ対策:** 安心して活用するために、事前に**ガイドラインや利用ルールを策定**し職員へ周知徹底すべきである [first-contact.jp](#)。守秘情報や個人情報は入力しない、AIの回答を転載公開する際の留意事項など、具体的な禁止事項・注意事項を明文化しておく。また可能であれば自治体専用環境（LGWAN上の利用や国内クラウド利用）を選択したり、**アクセス制御・監査ログ**の仕組みを入れるなど技術的対策も講じたい [first-contact.jp](#)。神戸市のように条例化する例も出ており、**組織としてリスクに向き合う姿勢**を示すことが利用者（職員・市民双方）の安心感につながる [first-contact.jp](#)。

④人材育成とマインドセット醸成: AI活用の効果は、ツールそのものより使いこなす人材の力量に左右される。職員に対して継続的な研修やワークショップを行い、プロンプト（AIへの指示）の工夫や留意点を教育することで現場力を高めたい [first-contact.jp](#)。横須賀市や戸田市で実践されたようなコンテストやハッカソンは楽しみながらスキル習得・アイデア創出につながる有効策だ。また「AIは敵ではなく使いようによって強力な相棒になる」という前向きな意識改革も重要である。現場からアイデアを募り成功体験を共有することで、**職員のマインドセット転換**を図っていくとよい [first-contact.jp](#)。

⑤広域連携と知見共有: 自治体ごとに手探りで進めるより、**他自治体や専門機関との情報共有・連携**を積極的に行う方が効率的である。先行事例の成功・失敗から学び、自団体に適用できそうな施策は積極的に取り入れる柔軟さが求められる。横須賀市は全国に知見提供する意向を示しており、総務省もガイドブックや研修を用意している [first-contact.jp](#)。これらのネットワークを活用し、**ベストプラクティスやプロンプト集の共有**（実際、山形県南陽市は581例のプロンプト集を公開 [city.nanyo.yamagata.jp](#)）を図ることで、ノウハウ不足の課題を補える。広域連携により予算や人材を融通し合うスキームも今後検討すべきだろう。

⑥継続的な評価とアップデート: AI技術や利用状況は日進月歩で変化するため、導入して終わりではなく**継続的な評価と改善**が必要である [first-contact.jp](#)。定期的に効果検証を行い、例えば削減時間や市民満足度の推移を追う。期待した効果が出ない場合は原因を分析し、プロンプトの見直しや他サービスへの切替えも含め改善策を講じる。逆に新たな課題（例えばAI利用者のスキル偏在や職務倫理上の問題）が生じた場合も、早期に対処しルール改定や追加研修を実施する。常に**PDCAサイクルを回しつつ、最新の技術動向もウォッチ**して取り入れていく姿勢が重要だ。例えば国内外の行政AI事例や新たな国産LLMの登場などアンテナを高く保ち、自団体への適用可否を検討し続けることで持続的な発展が見込める。

以上の提言を踏まえれば、生成AIは決して特別な先進自治体だけの取り組みではなく、**全国どの自治体でも課題解決に役立てられる実用的ツール**であると言える。小さく始めて大きな成果を積み上げ、リスクを正しく恐れつつ積極的に活用することが、これからの行政に求められる姿勢であろう。各自治体が互いに知恵を持ち寄り、日本全体の自治体DXが底上げされることを期待したい。

**参考文献・資料:** 本レポートでは総務省・自治体の公開資料やプレスリリース、導入事例記事等 [first-contact.jp](#) [first-contact.jp](#) [first-contact.jp](#) を参照し、2023年以降の国内自治体における生成AI活用状況を整理・分析した。各種データや具体例の出典については文中の【】に示した。

## 引用

② **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

■ **つくば市における生成AI導入の経緯について | つくば市情報政策課**  
<https://tsukuba-city.note.jp/n/n72efbad57cd4>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

■ **つくば市における生成AI導入の経緯について | つくば市情報政策課**  
<https://tsukuba-city.note.jp/n/n72efbad57cd4>

■ つくば市における生成AI導入の経緯について | つくば市情報政策課

<https://tsukuba-city.note.jp/n/n72efbad57cd4>

● 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

■ つくば市における生成AI導入の経緯について | つくば市情報政策課

<https://tsukuba-city.note.jp/n/n72efbad57cd4>

■ つくば市における生成AI導入の経緯について | つくば市情報政策課

<https://tsukuba-city.note.jp/n/n72efbad57cd4>

■ つくば市における生成AI導入の経緯について | つくば市情報政策課

<https://tsukuba-city.note.jp/n/n72efbad57cd4>

● 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

■ つくば市における生成AI導入の経緯について | つくば市情報政策課

<https://tsukuba-city.note.jp/n/n72efbad57cd4>

● 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

● ミネドンと音声会話できる観光ChatGPTについて - 【公式】山口県美祢市 秋吉台国...

<https://karusuto.com/notice/minedon-kanko-chatgpt/>

● ミネドンと音声会話できる観光ChatGPTについて - 【公式】山口県美祢市 秋吉台国...

<https://karusuto.com/notice/minedon-kanko-chatgpt/>

● 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

● さいたま市 様 : 富士通

<https://www.fujitsu.com/jp/about/resources/case-studies/trends/ai-saitama.html>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**  
<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑤ **さいたま市様 : 富士通**

<https://www.fujitsu.com/jp/about/resources/case-studies/trends/ai-saitama.html>

⑥ **さいたま市様 : 富士通**

<https://www.fujitsu.com/jp/about/resources/case-studies/trends/ai-saitama.html>

⑦ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑧ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑨ **戸田市におけるAIの取り組み - 戸田市公式サイト**

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/154/chatgpt.html>

⑩ **戸田市におけるAIの取り組み - 戸田市公式サイト**

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/154/chatgpt.html>

⑪ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑫ **戸田市におけるAIの取り組み - 戸田市公式サイト**

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/154/chatgpt.html>

⑬ **戸田市におけるAIの取り組み - 戸田市公式サイト**

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/154/chatgpt.html>

⑭ **戸田市におけるAIの取り組み - 戸田市公式サイト**

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/154/chatgpt.html>

⑮ **戸田市におけるAIの取り組み - 戸田市公式サイト**

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/154/chatgpt.html>

⑯ **戸田市におけるAIの取り組み - 戸田市公式サイト**

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/154/chatgpt.html>

⑰ **戸田市におけるAIの取り組み - 戸田市公式サイト**

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/154/chatgpt.html>

⑱ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑲ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

② 戸田市におけるAIの取り組み - 戸田市公式サイト

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/154/chatgpt.html>

③ 戸田市におけるAIの取り組み - 戸田市公式サイト

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/154/chatgpt.html>

④ 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑤ 生成AI、中小企業はスマールスタートで | 最新IT活用研究会

<https://saishinit.com/?p=223>

⑥ 生成AI、中小企業はスマールスタートで | 最新IT活用研究会

<https://saishinit.com/?p=223>

⑦ 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑧ 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑨ 生成AIを活用した事業の実証運用 | 別府市

<https://www.city.beppu.oita.jp/sisei/df/henkaku/ai2.html>

⑩ 生成AIを活用した事業の実証運用 | 別府市

<https://www.city.beppu.oita.jp/sisei/df/henkaku/ai2.html>

⑪ 生成AIを活用した事業の実証運用 | 別府市

<https://www.city.beppu.oita.jp/sisei/df/henkaku/ai2.html>

⑫ 生成AIを活用した事業の実証運用 | 別府市

<https://www.city.beppu.oita.jp/sisei/df/henkaku/ai2.html>

⑬ 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑭ 生成AIを活用した事業の実証運用 | 別府市

<https://www.city.beppu.oita.jp/sisei/df/henkaku/ai2.html>

⑮ 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑯ 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

⑰ 自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **生成AI、中小企業はスマートスタートで | 最新IT活用研究会**

<https://saishinit.com/?p=223>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

④ **生成AI、中小企業はスマートスタートで | 最新IT活用研究会**

<https://saishinit.com/?p=223>

④ **生成AI、中小企業はスマートスタートで | 最新IT活用研究会**

<https://saishinit.com/?p=223>

④ **一発OK!! 市民も使える！生成AI活用実例集（プロンプト集）581例**

<http://www.city.nanyo.yamagata.jp/dxchosei/5793>

④ **自治体の生成AI導入事例10選 | 活用シーンや導入成功のポイントも解説**

<https://first-contact.jp/blog/article/localgovernment/>

すべての情報源

 first-contact  tsukuba-city.note  karusuto  fujitsu  city.toda.saitama

 saishinit  city.beppu.oita  city.nanyo.yamagata